

平成27年度 事業計画

公益財団法人 日本ハンドボール協会

平成27年度事業計画

ハンドボール競技はオリンピック種目として世界 206 カ国の国と地域が参加するビッグスポーツの一つです。日本ハンドボール協会はハンドボールの持つ魅力・素晴らしさを沢山の人々と共有し、発展させるべく様々な活動を展開して参ります。

2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定、更に2019年12月に女子世界選手権の日本開催が決定し、日本ハンドボール界にとって今までにない「大きな具体的な目標」を持つことが出来ました。

これに伴い日本のスポーツ界の国際競技力向上に向けたより具体的な取り組みが強気に推進されることとなります。その中で、ハンドボールはオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そこでのメダル獲得に向けた活動と、結果がより強く求められて参ります。この目的に向かって、総力を結集して取り組んで参ります。そしてハンドボール競技の更なる注目度アップ、競技人口の拡大に向けてあらゆる角度から事業を推進して参ります。

〔1〕 <競技力向上(強化)>：リオデジャネイロオリンピック出場権獲得に向かって、ハンドボール界全体の総意を結集して強化に取り組みます。そして、2019年女子世界選手権、2020年東京オリンピックでの開催国枠出場に伴う、この大会で日本チームの大活躍と「メダル獲得」という具体的な目標に向かって強化を推進してまいります。

第一に、更なる強化方針・強化体制の構築を行い、リオデジャネイロオリンピック予選突破にむけて、日本代表チームを鍛え上げます。

第二に、厳選した「東京オリンピック強化指定選手」を中心に2019年、2020年に向けた特化した計画的強化活動を推進します。

第三に、中期・長期を踏まえた指導者・強化スタッフの養成・充実を計り、指導方針の徹底を行い「世界で戦える指導者」を育成します。

第四に、強化をサポートするコーチ、情報分析・医科学・トレーナーの専任化を視野に、スタッフ体制の整備を行います。

第五に、強化本部の活動について強化委員会を中心に進めるため「強化戦略プロジェクト」の機能を強化委員会の元におき企画・提案・サポートを行うことで強化活動を推進します。

第六に、「競技者育成技術委員会」の役割を明確にし「強化に真のベクトルを向ける」活動を行います。

<競技力向上(発掘・育成)>：2019年、2020年、2020年以降(レガシー)を踏まえ更なる充実を計り、代表選手作りを行います。ナショナルトレーニング

システム(NTS)で世界に通じる一貫指導体制を徹底させ、指導の共有化と世界に通ずる選手を発掘育成します。JHA ジュニアアカデミーで、個の力を最大限に伸ばす教育を総合的に行い育成し日本代表に送り込みます。

- 〔 2 〕 **審判**：強化と審判は目的を達成する為の両輪です。レフェリー技術の国際基準を踏まえた向上は必至です。国際レフェリーと国内レフェリーが同じ国際基準の上に立ったジャッジを行う為の指導・育成方針を構築し、徹底する為の活動を行います。日本の国際資格レフェリーの増員とオリンピック出場を目指すため、諸問題の解決に全力を傾けます。若手レフェリーの育成・出現に具体的な対策の基レフェリー登録人口拡大に取り組みます。
- 〔 3 〕 **競技**：強化を推し進めるとともに全国 4,500 チームの活性化のため、国内競技大会の充実のため日本選手権をスタートします。また、社会人選手権、高校選抜大会、日本リーグ当のスケジュール変更に取り組み具体化を推進します。
「更なる注目度アップ」を図る為、「大会運営マニュアル」を基本に各大会の積極指導を行い、日本リーグ・企画・マーケティング・広報・各都道府県協会・各連盟と連携し、沢山の皆様に満足いただける国際基準の競技大会運営に取り組みます。2019 年、2020 年にむけて「2019・2020 プロジェクト」大会運営部分の準備に取りかかります。
- 〔 4 〕 **指導普及**：「普及活動事業」と「指導者育成事業」を 2 本柱とし、普及活動に於いて「小学生チームの拡大」、「中学生チームの拡大」を最重点に、合わせて「クラブチームの育成にも取り組み、競技人口の拡大を図ります。「NTS との連携」を更に拡充し、発達段階の合致した活動の推進に努めます。「マスターズ大会」、「車椅子大会」の拡充、ビーチハンドボール競技の競技人口アップ・大会の拡大充実・発展・強化に取り組みます。「指導者育成」に於いては、「国際感覚を持ったトップ指導者の育成」と「国内（都道府県・各連盟）の指導者の育成」や「継続的な研修」等の各々の目的に沿った具体策を明示し、強力に推進します。さらに、個々の指導者の人権感覚を醸成するように努めます。指導者資格の制度化に取り組みます。
- 〔 5 〕 **マーケティング**：日本協会の収入源の大きな柱と捉え、2019 年、2020 年の大会日本開催に伴うハンドボールバリューの確実なアップが見込まれる中、企画・広報・強化・日本リーグと連携し、新しい企画を行い、スポンサーの獲得・拡大・イベントの実施・マスコミへのアプローチ・グッズ企画販売・各種権利の整理と活用に取り組みます。「がんばれ 20 万人会」、「マスターズ大会」、「界友会」、「ハンドボールマンガルフ大会」、「日本リーグサポーター」、「イベント会社」、「グッズ企画販売会社」、「広告代理店」等の中からも新たなマーケティング活動のチャンスを開拓します。また、広く全国から「2019・2020」にむけての寄付金集めを推進します。
- 〔 6 〕 **国際**：国際ハンドボール連盟(IHF)・アジアハンドボール連盟(AHF)におけるあらゆる情報は、インターネットの普及により瞬時に多くの情報が入って来るようになりました。IHF・AHF 他ヨーロッパ連盟 (EHF) の動き・施策に「アジア

地域の発展」をベースに迅速な対応を展開します。その中でも東アジアハンドボール連盟(EAHF)の結束を強固なものとし、新しい提案・人的交流等、IHF・AHF世界各国ハンドボール連盟との関係を更に深める活動を行うと共に、2019年、2020年に伴う様々な国際的交流に迅速に対応して参ります。又、次世代の国際担当者の育成を継続いたします。

- 〔7〕**広報**：2019年、2020年を最大のチャンスとして「ハンドボール競技の注目度の更なるアップ」を目指して、広報活動を展開します。インターネットの拡大に伴い、広報活動の分析・見直しを行い、タイムリーな変化に対応した広報活動を行います。ホームページの充実は必至であります。テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等を対象にした広報活動と、「マーケティング」、「企画」と連動した活動を展開します。
- 〔8〕**財務**：現況の収入源を真摯に捉え、国際大会出場増加等、支出増を確実に把握し、支出の削減に取り組み、計画的予算執行を行い、健全な財務状況を維持します。2019・2020年に伴う、国からの強化資金助成の動きを注視し、財務計画を進めます。また、特別強化資金確保のため、期限付き特別登録金の採用を推進します。
- 〔9〕**総合企画**：日本ハンドボール協会の短期・中期事業計画を立案検討します。なお、2019・2020に伴う、各事業部、プロジェクトの活動を統合・調整・推進します。
- 〔10〕**総務**：公益法人設立に伴う諸規程等の整備を進めます。日本協会の組織の充実・役員育成と事務局業務の充実に取り組みます。日本協会全体のガバナンスとコンプライアンスの徹底を図ります。
- 〔11〕**環境**：環境問題は国民全体の問題であり、スポーツ界も行動を共にしております。ポスター・バナー・キャンペーン等教宣活動に加え、「身近な事から始める」環境実践活動に積極的に取り組みます。
- 〔12〕**日本リーグ**：日本リーグはその理念にもあるように、日本のハンドボールの国際競技力向上のベースであります。日本リーグ発展・充実の施策を展開します。強化本部との十分な連携のもとで「世界に通ずるプレー」の展開・充実を図ります。そして日本のトップゲームを沢山のひと々に披露する為に「プロの興行集団」を目指します。
リーグの充実を図る為「新規加入チームの拡大」「チャレンジ・ディビジョンチームの参加拡大」に取り組みます。
- 〔13〕**プロジェクト**：
 - (1) **がんばれハンドボール20万人会**：「ハンドボール界総力をあげて日本代表を応援する」、「20万人を達成することによるハンドボールのバリューアップ」の2大目的を踏まえ、諸策を見直し20万人を目指します。
 - (2) **組織活性化プロジェクト**
 - イ．社会人連盟の活性化に取り組みます。
 - ロ．日本選手権プロジェクト：日本選手権実行に取り組みます。
 - (3) **2019年女子世界選手権準備委員会**：2019年大会実施に向けて大会組織委員

会に移管し準備に入ります。

(4)2020 プロジェクト：大会運営の実行に向けて取り組みます。

(5)2015 リオ五輪女子アジア予選準備委員会：AHF 開催地と連携し、成果の上がる大会を準備します。

1. 競技力向上に関する事業

強化

【基本方針】

1. リオデジャネイロオリンピック出場権獲得に向け、最大限の準備を行う。
2. 熊本女子世界選手権、東京オリンピックでのメダル獲得を目指した強化活動を推進する。

【重点施策】

1. 海外拠点の設置に取り組む

代表チームの対外試合の少なさは、日本の強化にとって致命的であり、海外に拠点を設け、そこを中心として色々なタイプのチームとのゲームを多くこなす。また、海外留学等個人が海外チームでプレーしやすい環境を提供できるようにする。外国人コーチを積極的に取り入れる。

2. 東京オリンピックへのチームビルドの前提として「東京オリンピック強化指定選手」を指名し、特化した強化計画に基づいて、個のフィジカル強化と競技の基礎技術であるフェイント力、ハンドリング、フットワーク力、ディフェンス力などの向上と判断力の養成を実施する。同時に人間力向上(代表教育、心理サポート)に取り組む。

3. 国立スポーツ科学センター(JISS)の支援を受け、スマートシステムの効率的運用や、個々の選手の体力・障害の有無などをデータベース化し集積管理、フィジカルの強化と障害の予防に努める。

4. 強化委員会の充実を図るため「強化戦略プロジェクト」の機能を強化委員会の中に置き、強化計画、スケジュール、国際情報等の企画・立案・サポートを行うと同時に、フィジカル・メディカル・メンタルコーチの充実を図る。

5. JOC のナショナルコーチアカデミーや在外研修制度を活用し、トップ指導者の養成を推進する。特に代表スタッフの語学力は必須になりつつあり、日本の国際競技力を上げるためにも積極的に取り組む。

6. 他競技からのタレント発掘(長身選手)に取り組む。

7. ゲーム分析、テクニカル分析などアナリストの養成に努める。

8. アンチドーピングの徹底を行う。

発掘・育成

【基本方針】

1. 世界基準を十分把握し、発掘育成に取り組む。
2. NTS での選手発掘、指導者育成に最注力し、JHA ジュニアアカデミーでの育成を図る。

【重点施策】

1. 世界基準の把握のため国際情報の収集・分析を行い発掘・育成に活かす
 - (1) 国際大会（アジア選手権・世界選手権）の視察、情報、分析を行い、世界基準を把握する
 - (2) NTS で指導方針（日本が目指すもの）を固め活動に取り組む
 - (3) JHA ジュニアアカデミーでは、指導方針に基づき大型選手を中心に個の力を最大限伸ばす事に取り組む
 - (4) 世界で闘う人間力育成に取り組む

2. 普及・指導に関する事業

《小学生専門委員会》

【基本方針】

1. 小学生専門委員会、各ブロックの組織強化を図る。
2. Jクイックハンドボールの主旨の理解と実施の徹底を図る。
3. U-12 指導者講習会を開催する。
4. J 級公認指導員の養成に努める。
5. 小学生全国大会、ブロック交流会の充実を図る。
6. 大崎企業スポーツ事業研究助成財団の補助による事業展開を行う。
7. 日韓親善交流会を通し、各地区の活動の活性化を図る。

【重点施策】

1. 小学生委員会の組織を見直し、部門別の担当委員を決定する
2. 各県小学生委員からなるブロック小学生委員会を開催し、実態把握と小学生の活動の活性化を図る
3. Jクイックハンドボールの指導講習会を開催する
4. U-12 の大会の在り方を検討する

《中学生専門委員会》

【基本方針】

1. 普及・強化活動の活性化に努める。
2. 学校現場や各地区の実態を把握し普及指導の充実を図る。

【重点施策】

1. 春の全国中学生ハンドボール選手権大会への全県出場、学校現場における部活動の現象に対する対策
2. 中学生女子のボールサイズの検討
3. NTS トレーニング、JOC ジュニアオリンピックカップ大会等を通して有望選手の発掘と育成に努める

《学校体育検討専門委員会》

【基本方針】

1. 小中学校の授業における指導実践を進める。

【重点施策】

1. 文部科学省スポーツ・青少年局への働き掛けを勧める
2. 研究委託制度の充実を図る
3. 第 18 回ハンドボール研究集会(授業研究検討)開催

《ビーチハンドボール専門委員会》

【基本方針】

1. 普及強化活動を推進する

【重点施策】

1. 各ブロックでのビーチハンドボール講習会の開催
2. 第 17 回全日本ビーチハンドボール選手権大会開催
3. 第 5 回アジアビーチゲームズ 2016 の日本代表選手選考・合宿

《マスターズ専門委員会》

【基本方針】

1. 各ブロックの活動を推進する。
2. マスターズの主旨の理解、浸透を図る。

【重点施策】

1. 第 23 回全日本マスターズ大会開催
2. 各ブロックでのマスターズハンドボール大会の実施し、主旨の理解を図る
3. 関西ワールドマスターズゲーム 2021 参加に向けての準備

《女性委員会》

【基本方針】

1. 女性指導者の実態を把握し、男女共同参画の実現を図る。

【重点施策】

1. 「女性指導者の指導環境における意識調査」の結果の集計・考察
2. 女性指導者としての課題の抽出と解決への取り組み

《指導委員会》

【基本方針】

1. 各都道府県、各ブロック、中央指導委員会との連携を強め具体的な活動目標を設定し、組織強化と活性化を図る。
2. 有機的な指導者育成・研修事業展開をする。

【重点施策】

1. 各都道府県において計画的な指導者研修会を実施する
2. 強化委員会、NTS 運営委員会と連携し、一貫指導内容の共通理解を図る
3. 審判委員会と連携し、指導とレフェリングの共通理解を図る
4. 全国委員会、中央委員会を開催し組織内の意志の疎通を図る
5. 公認指導員養成講座、指導者研修会を県、地域、全国の範囲で開催し、指導者の量と質の充実を図る
6. 国際セミナーに参加し、海外の最新情報の収集と分析に努める

競技者育成技術委員会

【基本方針】

強化・指導・普及・NTS・審判等々との連携を密にし、それぞれの効果的な活動を図る。

【重点施策】

1. テクニカルグループで内容検討
2. NTS、指導委員会、審判部との連携上の具体化
3. 日本のハンドボールの姿を検討・・・NTS を柱として各部の事業を効果的な実施計画作成

3. 競技運営に関する事業

【基本方針】

1. 2019 年 2020 年を踏まえた競技運営の組織を立ち上げ、その準備をスタートする。
2. 平成 27 年度日本選手権大会の開催運営にあたる。
3. 高校選抜大会のスケジュール変更を推進する。
4. 日本協会主催、共催大会及び国際大会を「大会開催マニュアル」、「大会運営マニ

マニュアル」を基本に管理運営にあたる。

- 5．テクニカルデレゲート(TD)制度の充実にあたる。
- 6．検定制度の充実、競技用具の開発にあたる。

【重点施策】

- 1．大会スケジュールの見直しを進める
- 2．大会運営マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、TDの任務マニュアル改訂・充実を図る
- 3．TDを含め競技役員の資質向上を図るため、競技役員講習会を開催する
- 4．競技用具の改良、開発を図る

4. 競技規則(審判)に関する事業

【基本方針】

- 1．組織の改善・充実および指導体系の充実を図る。
- 2．レフェリーの発掘、育成および拡大をする。
- 3．国際基準に沿ったトップレフェリーの強化をする。
- 4．競技規則の徹底を図る。
- 5．2019年、2020年を見据えた国際レフェリーの育成をする。

【重点施策】

- 1．組織の改善・充実および指導体系の充実
 - (1)各専門委員会の活性化を図るため、組織の改善と事業内容を見直し、計画的な取組みを実践する。
 - (2)各ブロック審判長・都道府県審判長の指導力向上と指導体系の確立と充実を図り、全国のレフェリーに国際基準に沿った判定基準と正しい運用方法が浸透するよう指導を行う。
- 2．レフェリーの発掘、育成及び拡大
 - (1)JHAレフェリーコース・A/B級審査会などとの連携強化を図る。
 - (2)高体連、学連、社会人連盟と連携しレフェリーを育成する。
 - (3)女性レフェリーを発掘・育成する。
 - (4)レフェリー登録数の増加を図る。
- 3．国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
 - (1)日本選手権・日本リーグなど、トップゲームにおける国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および伝達を迅速に行う。
 - (2)レフェリーアカデミーを推進させる。
 - (3)トップレフェリー研修会を実施する。
- 4．競技規則の徹底

- (1)競技規則の正しい運用を目指し、各地講習会の内容統一とともに、『審判員の目標』を徹底させる。
 - (2)競技運営委員会および指導委員会と連携し、講習会に指導者やプレーヤーの参加を働きかけるとともに、NTS への参加、レフェリーシンポジュームの開催など相互理解を目指す。
 - (3)全国大会担当レフェリー研修会を実施する。
5. 2019年、2020年を見据えた国際レフェリーの育成
- (1) IHF/AHF レフェリーの育成と併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。
 - (2)有望レフェリーの海外研修派遣を計画する。

5. 総務に関する事業

【基本方針】

ガバナンス・コンプライアンス体制の強化により適正かつ円滑な事業執行と事業進捗を図ると共に引き続き業務の効率化に努める。

【重点施策】

1. 円滑な事業推進に向けた業務の効率化
2. 事務局業務の整備・充実
3. コンプライアンスの徹底
4. 環境保全活動の実践活動の継続
5. 個人情報保護法の遵守と徹底
6. 諸規定の整備

6. 国際に関する事業

【基本方針】

日本ハンドボール協会を始めとする国内外関係者の国際的活動に係る情報の収集・提供および活動の支援を実施する。また、国内外のステークホルダーとの連携・ネットワーク構築をする。

1. 国際機関との連携促進およびネットワーク構築をする。
2. 国内外における関係者の国際的活動支援を行う。
3. 日本代表に係る国際的活動支援を行う。
4. 国際大会や国際会議の開催支援を行う。
5. 国際的催し物への参加と支援をする。

【重点施策】

- 1．日本ハンドボール協会を始め、国内外ハンドボール関係者やチームなどの国際的活動支援
- 2．審判ならびにテクニカル делеゲート、レクチャラーなどの派遣および活動支援
- 3．海外情報種集とその活用、海外移籍の事務的支援
- 4．新強化体制 2020 東京オリンピックに向けての国際事業検討
- 5．日本代表チームなどの海外国際大会派遣などの事務的支援
- 6．2019 年女子熊本世界選手権、2020 年東京オリンピック開催に係る国際的活動支援(連絡・交渉・情報収集)および具体的な国際アクションプランの検討
- 7．国際ハンドボール連盟総会を始めとする各種国際会議やシンポジウム、世界選手権や国際大会などへ参加し、国際情報の収集および国内情報の発信を実施、また関係機関の活動を支援
- 8．次世代の国際担当者の新規発掘と育成継続とその効果拡大

7. 財務・会計に関する事業

【基本方針】

平成 26 年度は、リオデジャネイロオリンピックアジア予選を始め各種事業の円滑な推進、また 2019 年 2020 年に向けた強化資金の獲得と 2019 年女子世界選手権に向けた財源確保に取り組む必要がある。そのため収入面においては、マーケティング委員会を中心とした協賛活動や支援獲得活動の取り組みと各種補助金助成金の有効活用を図る。支出面では、各事業において計画的予算執行を依頼し、効率の良い事業運営を推進していく。

【重点施策】

- 1．適正な予算配分と管理の徹底
- 2．マーケティング委員会を中心とした各種運営費の積極的な財源確保
- 3．各種補助金助成金の積極的活用
- 4．2019 年女子世界選手権開催に向けた財源確保
- 5．2020 年に向けた強化資金の獲得推進

8. 広報に関する事業

広報事業

【基本方針】

- 1．注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
- 2．協会事業の周知徹底を図る。

3. マスコミとの交流を拡大する。
4. 協会広報のタイムリーかつスムーズな運営を図る。
5. インターネット情報の充実・拡大を図る。

【重点施策】

1. 代表チームの情報発信の充実
2. マスメディアへの積極的情報発信
プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施
3. ホームページの充実
4. インターネットと機関誌の連携充実
5. トップリーグ連携機構との連携活動
6. 2019年、2020年に特化した広報活動
7. 組織の強化
8. マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進

インターネット

【基本方針】

1. 情報提供の充実とアクセス数アップを目指す。
2. 作業の効率化・スピードアップを図る。
3. 新たな情報発信方法の実施と円滑な運営に取り組む。

【重点施策】

1. 日本協会ホームページの充実
 - (1) 代表チームの情報発信の充実を図る
 - (2) 2019年、2020年を踏まえた広報活動の計画化、充実を図る
 - (3) 新たな情報発信方法の検討し実施する
 - (4) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る
2. ホームページ等、円滑な運用のための体制強化を図る

9. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌発行を通じ、日本協会方針・計画の徹底と都道府県協会・各連盟等日本協会組織全体の情報共有化と連帯感の高揚を図る。又、協会活動経緯の一覧性・保管性を提供し、ハンドボールの指導・普及・強化等夫々の活動関係者に様々な関連情報を伝えることにより、ハンドボール界の発展に寄与する。

【重点施策】

1. 施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信としての場、都道府県協会からの情報発信としての場として、機関誌をより効果的な利用を迫及する。
2. インターネット掲載情報との密接な連携を図り、機関誌と相互の情報の質を高めることで、情報発信機能の役割を高める。
3. 大会報告記事では単に報告にと留まらず、大会を取り巻く様々な状況などを掲載することで、大会の特徴など読者の興味に応える掲載を図る。
4. 機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める。
5. 年間8回の発行回数を維持する。
6. 指導者のみならず、選手・部員も容易に購読できる環境整備のための方策を図る。
7. 2019年、2020年を踏まえた連載企画を実現する。

10. 企画に関する事業

【基本方針】

1. 日本ハンドボール協会の現状分析を行い、短期・中期事業計画を立案検討する。
2. 2019・2020に伴う各事業本部、プロジェクトの活動を総合的に調整・立案・推進すべく活動を行う。

【重点施策】

1. 社会人連盟の拡大・充実を図る
2. 日本選手権を実施し更なる充実を図る
3. 2019年女子世界選手権大会開催に向けた準備を進める
4. 2020年に向けて運営体制の整備に取りかかる

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】

1. 2019年、2020年に向けて、大きなバリューが生まれたことによる、マーケティング活動の更なる推進を図る。
2. ハンドボールが持っているあらゆるバリューの創出を図り、マーケティング活動を行う。
3. 日本協会の収入の大きな柱となるマーケティング収入の確保・拡大を図る。

【重点施策】

1. マーケティング収入目標 6,000万円

- (1) オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大
 - (2) 国内各大会毎の大会協賛金の確保
 - (3) ナショナルユニフォーム広告等
 - (4) 機関誌、プログラム広告等
 - (5) 物品販売
2. 新規協賛企業の開拓、拡大
 3. 2019 年に向けた特別協賛企業の獲得に向けた活動
 4. 新しい強化資金作りの活動をスタートさせる(ファンドレイジング)
 5. オリジナルグッズ、DVD 等の企画販売(日本協会、日本リーグ)
 6. 各種イベントの企画(ハンドボールマンゴルフ大会・スポンサー感謝の集い他)
 7. 協会主催大会及び各都道府県・各連盟に対するマーケティング活動の指導並びに、協賛パートナーの拡大・協力
 8. JOC、トップリーグ連携機構との連携・協力によるマーケティング活動の向上
 9. 広告代理店、「イベント会社」、「グッズ企画販売会社」、「等の中からも新たなマーケティング活動のチャンスを開拓
 10. 事務局マーケティング担当の活性化を図り、各委員の担当を明確にして推進
 11. 2015 リオ予選開催のマーケティング活動を行う

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

日本リーグの理念に基づき、ハンドボールのステータスを向上させるために全力で取り組む。日本協会強化本部と連携をして、日本リーグ選手が日本代表選手として国際大会で戦い抜くため、更なる試合内容の充実をはかり、競技力向上に努めると共に日本代表チームの強化を支援してゆく。

地域に根ざしたホーム&アウェイを行い、集客数の改善に努め、施策の1つとして集客指定試合を各チームに義務づけ、企画、運営等独自性のある大会運営にしてゆき、日本ハンドボール界の運営の手本となるよう「プロの興業集団」を目指す。未来の日本リーグ選手を夢見る子供達のために、地域に密着した環境作りを推進する。そしてリーグの更なる充実のために「新規加盟チームの誕生」を目標として、プロジェクトを立ち上げ、これまで以上に強化し早期実現に努める。その一貫として「チャレンジ・ディビジョンチームの参加拡大」に努めてゆく。

財政基盤の確立のため、マーケティング部の充実を図る。日本リーグ開幕 40 周年にあたり、40 回記念大会の成功と、次の 10 年、40 周年に向けたビジョンを確立させる。また、日本ハンドボールリーグのバリューアップのために、様々な媒体を利用したメディア等への露出を増やしてゆく。

【重点施策】

《総務部》 運営の諸整備を推進し、日本リーグの運営をより協力がつ円滑なもの
に変革し運営体制を強化する

1. 集客指定試合の充実
2. 各事業内容、各部会任務の明確化及び改善
3. 円滑な大会運営にむけたマニュアル等各種ツールの整備
4. 開催地責任者・GM 合同研修会の活性化と開催地の連携強化
5. 震災復興支援活動等の社会貢献活動の推進

《チャレンジ・ディビジョン》 トップリーグ参入チームの支援、発掘

1. 参加チームの競技力向上及び体力強化支援
2. トップリーグ参入への支援体制強化

《広報部》 メディア、ファンに対する情報発信

1. 日本リーグ 40 回大会の充実
2. 広告媒体を使用した日本リーグの露出度を増
3. 集客アイテムとして全国で使用できるポスター作成
4. 試合開催情報の発信の強化と方策立案

《マーケティング部》 日本リーグの活性化と収益拡大

1. リーグスポンサーの獲得
2. リーグ各チームのマーケティングの一括管理
3. リーグ、協会とのスポンサー権利の明確化

《競技・審判部》 レフェリーの技術向上及びチームとの共通理解

1. コーチ・レフェリー合同研修会開催
2. JHL オフィシャル研修会開催
3. チャレンジ・ディビジョンへの若手レフェリーの登用と指導
4. レフェリー評価表を活用したレフェリーへのフィードバック

《スケジュール部》 日本リーグの活性化を図りつつ代表活動との連携

1. 日本協会強化本部との連携したスケジュール作り
2. 各チームの運営経費軽減を重視したスケジュール
3. 活性化及び集客に結びつく日程調整
4. 第3地域での計画的な開催
5. 男女ペアカードを公募できる調整
6. 各地記念行事に合わせた日程調整

《普及部》 全ジュニアチームの設立による日本リーグの活性化

1. ジュニアチーム活性化のための情報交換
2. ジュニアリーグ開催における日本リーグの経費負担軽減策検討
3. 開催場所の計画立案（ローテーションや全国公募等）
4. 東西リーグチーム分けの検討

《記録部》 PC スコアの改善とデータベースを活用した情報発信のシステム構築

1. PC スコアのスムーズな運用
2. 膨大な記録データの管理と逐次情報発信ができる体制の準備

《トップリーグ参入PJ》早期実現に向けてプロジェクトの強化

- 1．東京での参入チーム作りの具体化
- 2．その他、地域での新規参入チームの誕生を支援する
- 3．日本協会、都道府県協会との連携強化

《中長期ビジョンPJ》

新規プロジェクトチームを立ち上げ日本リーグ50周年に向けた新たなビジョンを策定する

《強化PJ》

試合の充実を図るため、監督を中心に強化プロジェクトを立ち上げる

13. 『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」、「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会員の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20万人を目指す。

【重点施策】

- 1．各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
- 2．サポート会員入会案内活動推進
- 3．会員への情報、サービスの拡充
- 4．会則、諸条件の見直し・充実